



## 神戸電鉄粟生線の存続のために③

年間利用者数、目標達成ならず

利用者減少 昨年度は657万人

※見込み



### 減少傾向に 歯止めがかからず

行政からの支援や神戸電鉄の経費削減などで、収支は多少改善されているものの、今後見込まれる利用者の減少や、電力料金の値上げなどに伴う経費の増加など、粟生線は、依然、厳しい状況にあります。

また、神戸電鉄粟生線活性化協議会の利用促進事業として、考えられる様々な事業を行い、一定の効果はあったものの、平成26年度の利用者数は657万人の見込みで、目標の700万人は達成できていません。



### 存続危機の 鉄道は数多く

このような状況は、粟生線に限ったことではなく、全国的な問題で、存続の危機に立つ地方鉄道は数多く存在しています。

12年度以降、鉄道事業法



11時台の発車を待つ車内で（＝粟生駅）

の改正による規制緩和などにより、全国で35路線、673キロの鉄軌道が廃止（26年3月末時点）となっている現状も見逃ごせません。

一方、沿線住民や県、沿線市、鉄道事業者が、鉄道を存続させるために、それぞれの役割を担い、地域特性に合った解決策を実施し、廃線の危機を乗り越えた鉄道の事例もあります。

▼問い合わせ先 交通政策グループ  
（☎③1404）